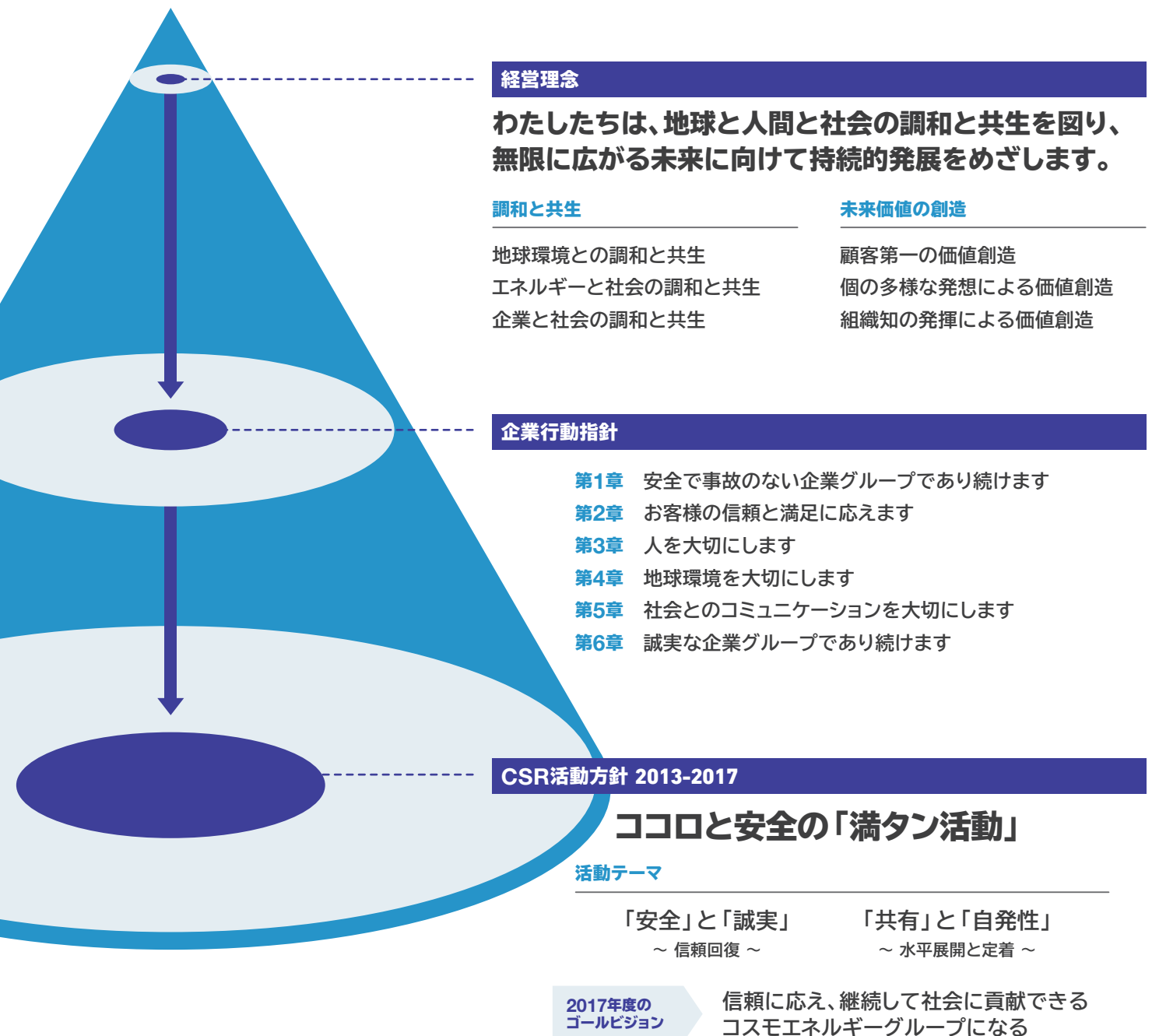


コスモエネルギーグループのCSR

コスモエネルギーグループは経営理念を実現するために、「コスモエネルギーグループ企業行動指針」に基づいて、連結中期経営計画とCSR活動方針を表裏一体とするCSR経営を進めるとともに、社員一人ひとりが誠実にCSR活動に取り組んでいます。



事業ごとの主な取り組み

CSR活動方針の 取り組み	石油開発事業	石油事業	石油化学事業	再生可能エネルギー事業
安全管理の徹底	リスクマネジメントの強化 P.35 安全管理活動の推進 P.35			
	安全・安定操業 P.20	OMSの導入 P.36		
誠実な 業務遂行／ お客様の 満足度向上	企業倫理推進体制 P.37 企業行動指針の浸透 P.37			
		SSでのCSRの取り組み P.38 サポート体制の充実 P.38 3つの約束診断 P.38		
人権／ 人事施策の充実	ダイバーシティへの取り組み P.39 ワークライフバランスの推進 P.40 長時間労働の削減 P.40			
		人材育成とグローバル人材 P.39		
環境対応策の推進	事業活動における環境負荷状況 P.42			
	環境保護活動 P.20	製油所の省エネ活動 P.41 水利用と排水対策 P.41	エネルギー自給率の向上 P.26 CO ₂ 排出量の削減 P.26	
社会との コミュニケーション 活動の推進	BCP対応 P.43			
	日本語教育 P.20	エコカード基金 P.44 クリーン・キャンペーン P.44 社会貢献活動 P.44		

内部統制体制

コスモエネルギーグループでは、経営理念および企業行動指針を実践し職務を適正かつ効率的に執行するため、「内部統制システムに関する基本方針」に基づき、当社およびグループ各社の取締役・社員の職務執行、リスクマネジメント・内部監査、監査等委員会による監査の体制を整備・運用しています。また、内部統制を統括する組織として

担当取締役を委員長とする4つの委員会を設置し、CSR活動の実績・評価を行い、重要なものを経営執行会議にて審議、取締役会に報告しています。更に、これらの内容はコスモエネルギーグループCSR推進連絡会において、グループ会社と情報共有することによりグループ会社全体の統制を図っています。

コスモエネルギーホールディングスの委員会体制図





コスモエネルギーグループのCSR

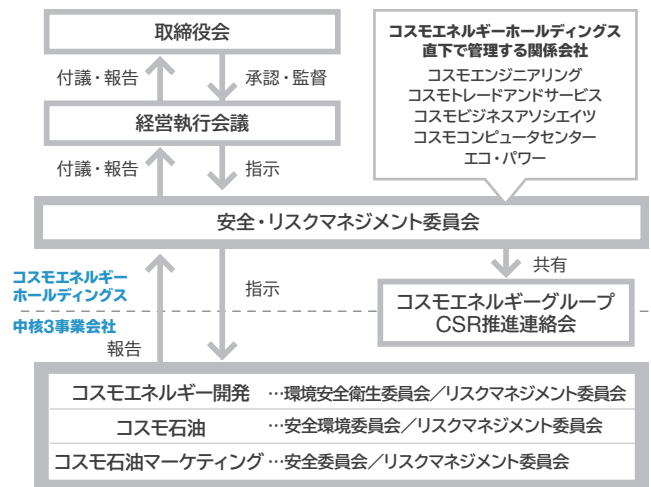
安全管理の徹底

コスモエネルギーグループでは、CSR活動方針の最重点項目の一つとして「安全管理施策の徹底」を掲げています。エネルギーの安定供給への強い使命感のもと連結中期安全計画（2013年度～2017年度）では、安全・リスクマネジメント委員会が、グループ全体の事業活動における安全管理活動を推進し、各事業所および各部門で事故や労働災害の撲滅をめざし、安全操業・安定供給を実現していきます。

グループ全体のリスクマネジメント強化

安全・リスクマネジメント委員会

コスモエネルギーグループでは、「安全・リスクマネジメント委員会」を年2回開催し、グループ全体の安全方針の審議や安全活動の進捗を確認する等、安全管理の充実を図っています。中核3事業会社においては、それぞれの事業内容や機能に応じて、コスモエネルギー開発が「環境安全衛生委員会」、コスモ石油が「安全環境委員会」、コスモ石油マーケティングが「安全委員会」を設置し、安全施策の立案や安全活動の進捗管理を実施。安全管理活動の確認・改善を行っています。



安全管理活動の推進

安全活動報告

コスモエネルギーグループでは、全グループの安全目標として「誠実に守るべきことを守る安全文化の浸透」を掲げ、安全活動に取り組みました。

2016年度の業務上の労災発生件数は合計118件（休業労災30件、不休業労災88件）、通勤途上の労災件数は合計20件、業務上も通勤途上も死亡0件でした。

今年度より、グループ会社の対象範囲をひろげ、直雇用社員だけでなく、協力会社等の社員も含めて集計しております。今後も労働災害の削減に継続的に取り組みます。

稼働率の向上

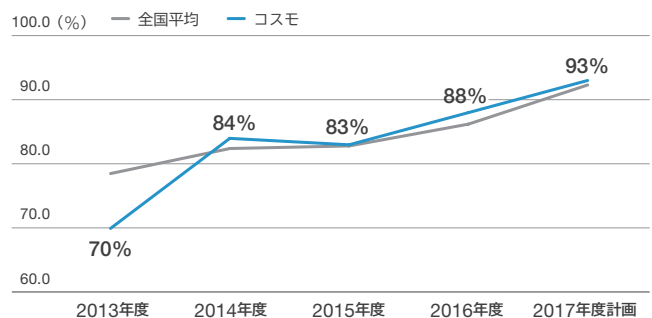
2011年の東日本大震災以降、主力の千葉製油所が約2年間の不稼働となり厳しい状況が続きましたが、2013年度から千葉製油所は徐々に稼働を再開、2016年度には2年ロングランを達成するなど稼働率が大きく改善しました。2016年1月から導入した新たな操業マネジメントシステムにより、製造部門全体で更なる安全操業・安定供給に取り組んでいることに加え、2017年度からは四日市地域における他社との事業提携開始、2018年度には千葉JVパイプライン完成後の精製機能一元化など、更なる競争力強化を実現していきます。

2016年度の労働災害発生件数

	総件数		直接雇用社員		協力会社等	
	休業	不休業	休業	不休業	休業	不休業
業務上	30	88	13	52	17	36
通勤途中	1	19	1	14	0	5

※コスモエネルギーホールディングス、コスモエネルギー開発、コスモ石油、コスモ石油マーケティング、丸善石油化学、関係会社33社含む

稼働率（CDベース）



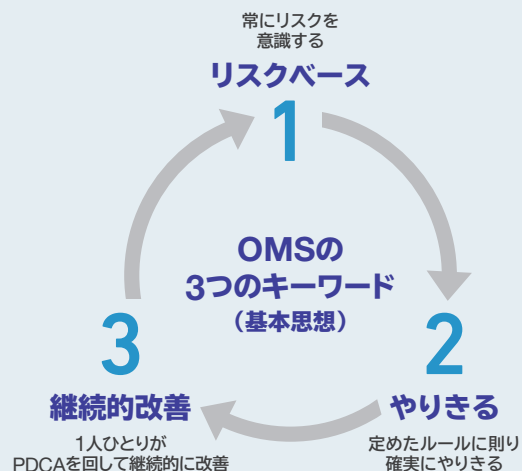
※全国平均データ出典：経済産業省 資源エネルギー庁

TOPICS

Operations Management System

操業マネジメントシステムの導入

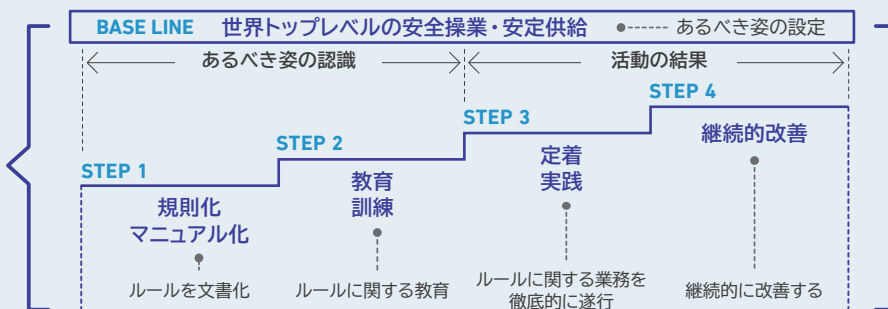
コスモ石油では、世界トップレベルの安全操業・安定供給の実現に向けて「OMS (Operations Management System)」を2016年1月より導入しました。操業を行う上で重要な項目を23の要求事項として明確にし、要求事項と現在業務の比較により「あるべき姿」とのギャップを認識することで「継続的改善」につなげていきます。OMSの導入により、操業に関するマネジメントシステムの基盤が整い、その基盤の上で安全操業と安定供給の達成、業務の改善、機会損失の回避を達成していきます。



OMSの4つのステップ

OMS活動は、「規則化・マニュアル化」、「教育・訓練」、「定着・実践」、「継続的改善」の4つのステップによって構成されています。

各ステップを順に繰り返すことで「あるべき姿＝世界トップレベルの安全操業・安定供給」に近づく仕組みであり、考え方です。文書化し、それに関する教育をし、実践で活かし、そこから改善点を見つけ出し、より良くしていく。このサイクルを私たちの企業文化とし、更なるレベル向上をめざしていきます。



OMS導入1年、従業員のマインドに変化が始めました

OMSを導入して1年が経過し、まだスタート地点ではありますが、少しずつ従業員の意識が変化してきました。初年度となった2016年度はSTEP1「規則化・マニュアル化」とSTEP2「教育・訓練」を重点的に行い、OMSが求める3つのキーワード（やりきる、リスクベース、継続的改善）に従業

員が意識するようになった結果、実際の業務にも反映されはじめ、従業員の実感につながっています。

導入2年目となる2017年度は、STEP3「定着・実践」、STEP4「継続的改善」を展開する機会を増やし、よりOMSへの強い意識付けを進めていきたいと考えています。



コスモエネルギーグループのCSR

誠実な業務遂行／お客様の満足度向上

コスモエネルギーグループでは、社員一人ひとりが、社会に対する責任と誠実さ、そして高い倫理観を持って業務を遂行しています。また、お客様に心地良さ、安心感、信頼感を感じていただけるような製品・サービスを安定的にお届けすることで、お客様の満足に応じていきます。

企業倫理推進体制

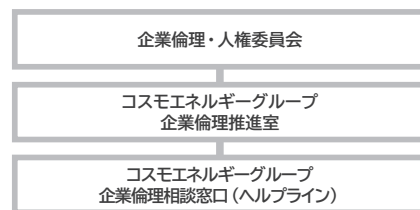
コスモエネルギーグループ企業倫理相談窓口

当社は、コスモエネルギーグループ企業行動指針の推進・実施・確認を行う「企業倫理・人権委員会」、その運営を補佐する「コスモエネルギーグループ企業倫理推進室」を設置しています。また法令違反および倫理上の問題を匿名で相談・通報できる「コスモエネルギーグループ企業倫理相談窓口（ヘルプライン）」を企業倫理推進室内および社外の弁護士事務所に設置しています。相談・通報の内容と対応については、「監査等委員会」に報告し、CSR活動の継続的な改善を図っています。なお、2016年度の重大なコンプライアンス違反※は0件でした。

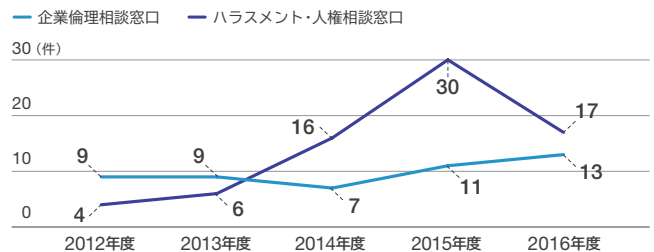
2017年度から「ハラスメント・人権相談窓口」を廃止し、「企業倫理相談窓口（ヘルプライン）」に統合いたしました。

※当社社内規定に定める最も高い危機レベルに該当する違反、もしくは事故

企業倫理推進体制図



相談件数



企業行動指針の浸透

企業倫理研修会

適正な業務遂行・倫理観のある企業行動の徹底への社員教育として、2016年10月～2017年3月の期間に、関係会社47社、延べ65回の企業倫理研修を実施しました。

2016年度は、「コスモ人としての正しい行動と考え方を身につける」を目標に、コスモエネルギーグループ行動指針に則って、CSR経営と行動指針の実践と、人権・ダイバーシティ施策について、グループごとに討論しながら研修しました。



企業倫理研修会の様子

受講割合

92.4%

4,195人

企業倫理eラーニング

企業倫理研修のフォローアップとして、グループ全社員が個別にインターネットで学習する「eラーニング研修」を2017年2月～3月に実施しました。オリジナルの教材作成を行い「企業行動指針」の理解度を更に深め、高い倫理感を維持することを目的としています。



受講割合

97.4%

6,011人

eラーニング ログイン画面

お客様の満足度向上

SSでのCSRの取り組み

コスモブランドがお客様から更なる支持を得ていくために、コスモ石油のSSではコンプライアンスの徹底と環境への配慮等CSR活動を推進しています。CSR診断として、個人情報情報の適正管理が行われているかを把握する個人情報保護（PP）調査と油漏洩の未然防止・拡散防止・汚染処理等、環境・安全に深く関係するSS設備等の管理状況を把握する環境管理（EM）調査を毎年実施し、問題点等の把握と改善に努めています。2016年度は1,198SSに調査員が訪問して調査をし、1,529SSが自己診断を行いました。

お客様サポート体制の充実

お客様の声を頂戴するコールセンター「コスモ石油カスタマーセンター」を開設し、24時間年中無休で対応しています。

2016年度は全体で9,378件の問合せ・ご指摘が入り、前年より768件減少しました。問合せでは、スマートビークル関連が前年より616件増加し、テレビCM・インターネット広告の効果がうかがえました。また一方でご指摘は567件入り、内539件がSSに関連するご指摘でした。お客様からの声を真摯に受け止め、「“ココロも満タンに”宣言」のもと、ご満足いただけるサービスレベルの向上に取り組んでいます。

カスタマーセンターに寄せられた声

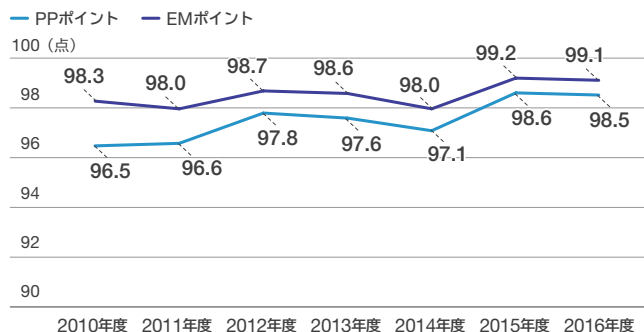
お客様の言葉

マイカーリースを契約しており近々納車予定なのですが、本日今乗っている車が急に動かなくなってしまう大変困っていました。相談したら、すぐに店長さんが代車の手配をしてくださり、本当に助かりました。感謝しています。

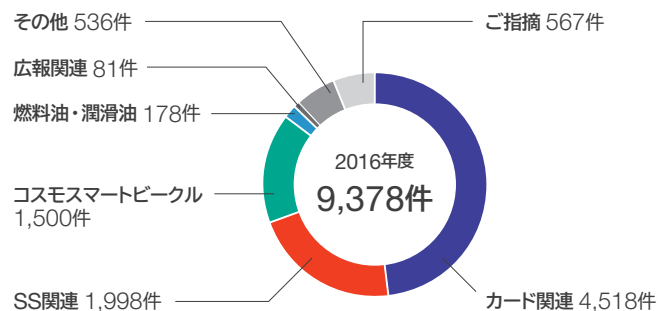
運営者より

▶ 現車の処分や、代車の手配については通常のことで、お客様の言葉をいただき大変嬉しく思います。

PPポイント・EMポイントの推移



問合せ・ご指摘件数比率



ご指摘

初めてセルフサービスを利用して、やり方がわからなかったため、スタッフを呼んだが、対応が不親切でした。

運営者より

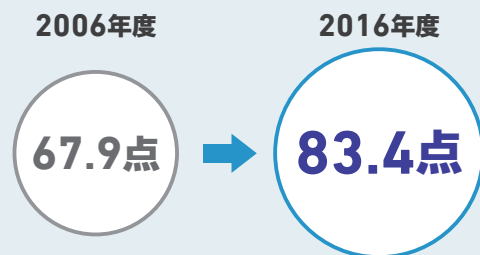
▶ お客様のご意見を真摯に受け止め、全社で共有を図り、従業員教育の徹底と更なるサービスの向上に努めていきます。

TOPICS

定期的な店頭チェック ～3つの約束診断～

コスモ石油のSSでは、お客様の“ココロも満タンに”を実現するために、「心地良さ」「安心感」「信頼感」の3つを「お客様との約束」（ブランドプロミス）として取り組んでいます。この「3つの約束」を全てのSSで守り続けることが、コスモのブランド醸成につながり、選ばれる存在になると確信しています。取り組みの確認のため、年に3回外部の覆面調査員による店頭チェックを行い、サービス向上に努めています。

外部覆面調査総合得点（100点満点）



“ココロも満タンに”宣言 3つの約束

- 心地良さ
- 安心感
- 信頼感

クлинаップの行き届いた店舗で笑顔と挨拶で対応します。
品質の確かな商品とサービスを提供します。
お客様からのご質問に対し、責任を持ってお答えします。



コスモエネルギーグループのCSR

人権／人事施策の充実

コスモエネルギーグループでは、「人材」を価値創造の源泉と考えます。

経営環境の変化に前向きにスピード感を持って取り組む人材を育成するとともに、様々なバックグラウンドを持つ社員が多様性を活かして活躍できる職場づくりに取り組んでいます。

人材育成とグローバル人材

プロフェッショナル人材育成とグローバル化対応

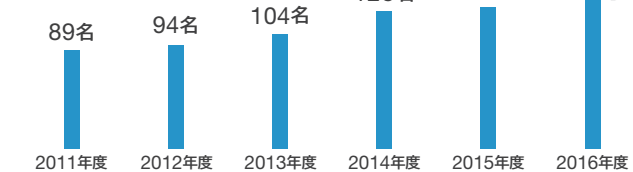
人事制度の中で求める人物像を「向上心と自己変革意欲を持ったプロフェッショナル人材」として設定しました。従来の一律・年功的な人材マネジメントから脱却し、目的に沿った人材を選抜して育成をめざしています。ビジネスにおいて必要とされる知識・スキルを昇格審査項目とし社員の自己啓発を促進し、マネージャーに対しては部下育成レベルを向上させる研修を実施するとともに、今後の活躍を後押しする女性社員対象の研修も充実させていきます。

また、コスモエネルギーグループ社員は、世界7カ国、137名が海外に駐在しています。「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」をめざすコスモエネルギーグループにとって、多様な経験・スキルを持ったグローバル人材の育成は急務であるため、若手・中堅社員を積極的に海外へ派遣するとともに、海外の大学・国内の国際系大学への指名留学（過去5年間で12名）を実施しています。

国別海外駐在者数



海外駐在者数の推移



※駐在者数は、コスモ石油在籍者とコスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス、コスモエネルギー開発のプロパー社員を足したものです。（2017年3月31日現在）

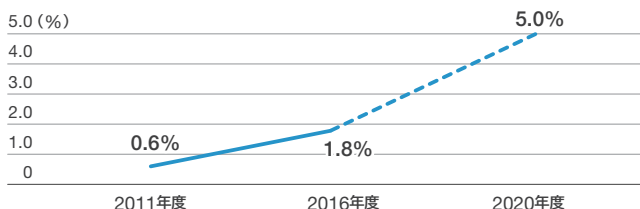
ダイバーシティへの取り組み

女性活躍推進に注力

コスモエネルギーグループでは、多様性の実現に積極的に取り組んでいます。様々なバックグラウンドを持つ社員が、意欲的に働ける職場を実現していくことで、高い生産性を実現し成長を続けていく企業をめざします。

その実現を推進するために、2015年6月にダイバーシティ推進室を設置し、多様性のある人材の活用と育成、人権施策の推進をしています。特に女性活躍推進に注力しており、2020年度に女性管理職比率5%（2016年度末現在1.8%）の達成を目標として行動計画を策定しています。

女性管理職比率



※コスモ石油在籍者（外部出向含む、出向受は含みません）

人権の尊重

一人ひとりの人権を尊重するとともに、ハラスメントを禁止し、明るく働きやすい職場づくりを行っています。特に人権・ハラスメントについては、「企業倫理相談窓口」で、社員だけでなく派遣社員、アルバイトなどの方々からの相談も受け、職場改善に取り組んでいます。

多様性の尊重

ダイバーシティの推進および公正な雇用の継続をテーマとして、「障がい者雇用率の維持向上」を目標に取り組んでいます。

2016年6月1日時点の障がい者雇用率は法定雇用率2%に未達でしたが、2017年6月1日時点での雇用率は2.36%となり、法定雇用率を上回りました。

また、障がい者の方の職場を広げるため、2016年度は1名の知的障がいのある学生、1名の聴覚障害のある学生対象のインターンシップを実施するなど、職場開発や雇用促進に努めています。

ワークライフバランスの推進

働き続けることができる体制づくり

コスモエネルギーグループでは、社員が心身ともに充実した状態で仕事に取り組めるとともに、ライフイベントの際にも仕事と両立できるよう、様々な制度を導入しています。

出産・育児にあたる社員については、法定以上の育児休業制度に加え、短時間勤務制度、在宅勤務制度などが利用できる他、記念日休暇（子どもの1歳の誕生日）などの、特別有給休暇の取得も促進しています。

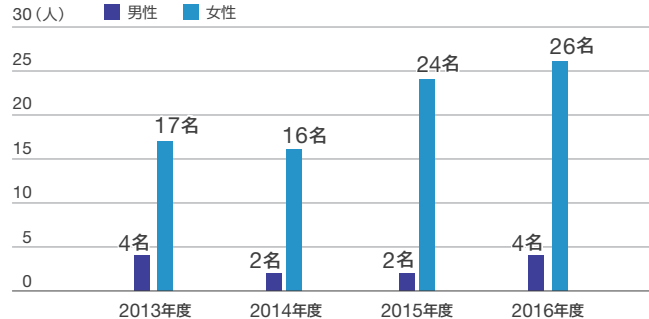
また、育児・介護事由での勤務地限定選択制度、育児・介護事由でやむを得ず退職した社員の再雇用制度や、配偶者の転勤事由による休職制度といった、家族や家庭の状況が変わった際にも、働き続けることができる体制を整えました。

育児休業を取得する社員には、復職しやすいよう、キャリア支援制度も整えています。

育児のための支援制度

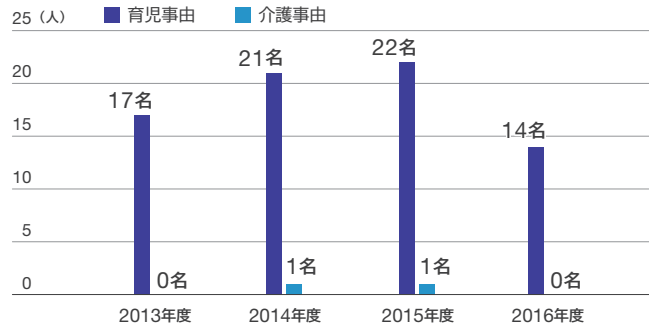
育児休業（3歳の年度末まで）	在宅勤務制度
育児短時間勤務（小学4年の始期まで）	勤務地限定選択制度
育児時間（女性のみ対象）	育児施設等利用補助
時間外勤務および深夜業の制限	保活コンシェルジュサービスの利用
育児・看護に必要な休暇	wiwiw サービスの利用
記念日休暇	育児休業給付金（共済会）

育児休業取得者数



※年度をまたいで取得している場合、各年度で取得者が重複します。
※コスモ石油在籍者（外部出向含む、出向受は含みません）

短時間勤務制度利用者数



※年度をまたいで取得している場合、各年度で取得者が重複します。
※コスモ石油在籍者（外部出向含む、出向受は含みません）

長時間労働削減への取り組み

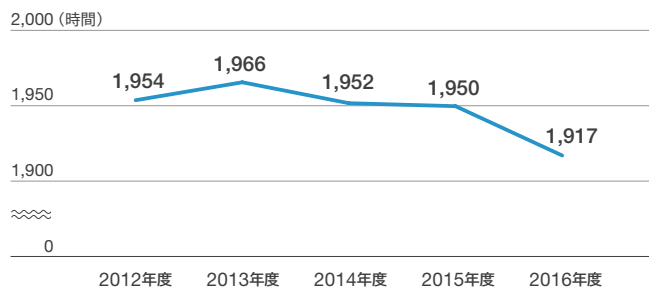
生産性の向上と労働時間の適正化

社員の健康を守り、仕事と生活の調和を図ることを目的として、2014年度より「生産性の向上による、労働時間の適正化」に取り組んでいます。

2015年度からは、年間の総労働時間1,900時間を指標として、夜型から朝型勤務への転換（残業加算率の変更）、リフレッシュデー（定時退社）の推進、20時消灯、管理職の人事評価に部下の労働時間実績・改善を反映するなど、様々な施策に取り組んでいます。結果は、徐々に見えてきており、3年連続で労働時間は減少し、計画的に有給休暇を取得するなどの意識が定着してきています。

2017年度は、この取り組みを継続するとともに、新しいITシステムの導入により、更なる生産性の向上や働き方の変革に取り組んでいきます。

総労働時間の推移



※コスモエネルギーホールディングス、コスモエネルギー開発、コスモ石油、コスモ石油マーケティング（コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービスからの出向受社員を含む）

月間時間外労働時間の平均と年間有給休暇の平均取得日数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
時間外月平均	22.5時間	23.2時間	22.3時間	22.5時間	19.6時間
有休取得日数	17.8日	17.4日	17.7日	18.4日	18.5日

※勤続年数に応じ、0年（4月入社の場合）：15日、1年：17日、2年：19日、3年以上以降：21日を付与しています。



コスモエネルギーグループのCSR

環境対応策の推進

コスモエネルギーグループでは、CSR活動方針の重点項目の一つとして「環境対応策の推進」を掲げています。「連結中期環境計画（2013年度～2017年度）」では、「事業継続を踏まえた地球温暖化への戦略的対応」「環境負荷の低減」「環境貢献活動の推進」の3項目をテーマに掲げ、コスモエネルギーグループの社会へのメッセージスローガン「ずっと地球で暮らそう。」を実現すべく活動しています。

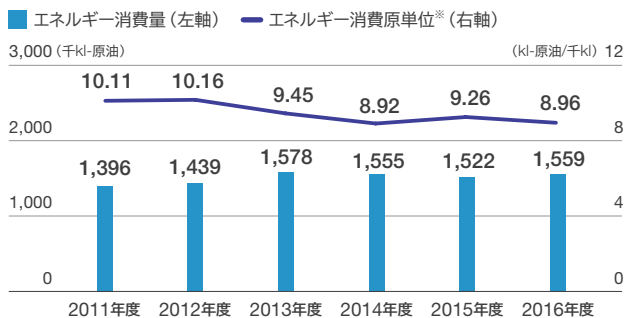
地球温暖化防止への対応

製油所の省エネルギー活動

コスモエネルギーグループのCO₂排出量の6割以上を占める製油所では、ハード面（高効率機器の導入）、ソフト面（運転効率の改善）の両面から省エネに努めています。

2016年度は原油処理量の増加に伴い、エネルギー消費量は増加しましたが、製油所での省エネ活動の推進により、エネルギー消費原単位と、原油換算処理量当たりのCO₂排出量の減少となりました。

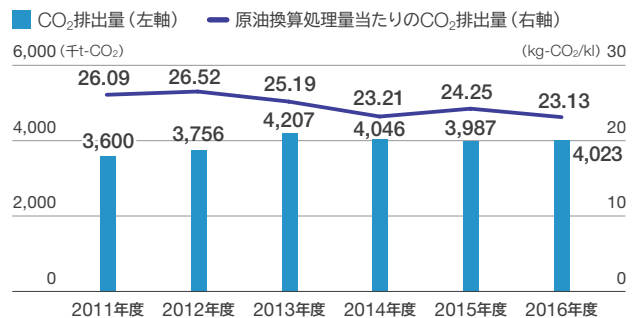
エネルギー消費量とエネルギー消費原単位の推移



※製油所の総エネルギー消費量を精製技術の複雑度を考慮した原油換算処理量で割った値で、単位は、kWh-原油/千kWhで表します。総エネルギー消費量は、熱や電気などの各種エネルギーの使用量を原油換算し、単位はkWh-原油です。



CO₂排出量と原油換算処理量当たりのCO₂排出量の推移



※2014年度より坂出製油所が物流基地となったため、2013年度までは4製油所、2014年度からは3製油所を集計しています。
※図に示したほかに、触媒再生塔から一酸化二窒素(N₂O)が17千t-CO₂eq発生しています(2016年度)。

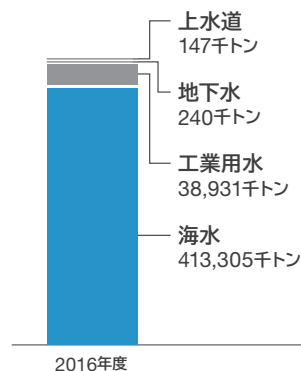
環境負荷低減

水利用と排水対策

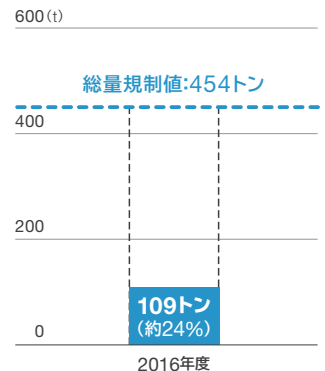
コスモエネルギーグループの製油所・工場等では、冷却用を中心に洗浄用、ボイラー給水用などに、多量の水(9割以上が海水)を使用しています。2016年度は452,622千トンの水を使用しました。そのうち38,931千トンが工業用水ですが、水の回収・再利用など効率的な水利用に取り組んでいます。

また、排水については、海水は冷却水として使用後、海へ放流し、洗浄用等事業プロセスで使用了水は、適切に処理し規制値より厳しい管理値を定めて、環境負荷を最小化して排出しています。2016年度のCOD(化学酸素要求量:水の汚れを表す指標)の負荷量は、総量規制値(年間参考値)の約24%という低い水準でした。

水使用量



COD負荷量



※コスモ石油、コスモ松山石油、コスモ石油ポリカンツの製油所・工場の数値を足したものです。
※総量規制値(年間参考値): 規制値は日量で定められ、その上限値に365日を乗じて年間値にしたもの。規制値を一時的に超過した場合、行政に報告するとともに速やかに規制値を下回るよう対策を講じています。

2016年度の事業活動における環境負荷状況

INPUT		事業活動		OUTPUT	
エネルギー		原油生産 ※1		大気への排出	
燃料	22,487 TJ			CO ₂	1,254 千t-CO ₂
エネルギー		原油輸送 ※1		大気への排出	
燃料	11,033 TJ			CO ₂	754 千t-CO ₂
石油事業		製造 ※2 ※3 ※4		石油事業	
エネルギー				大気への排出	
購入電力	3,828 TJ (395,519 千kWh)			CO ₂	4,029 千t-CO ₂
燃料	56,681 TJ (1,462 千kl-原油)			SO _x	3,244 t
				NO _x	2,036 t
用水				排水	
海水	389,088 千t			排水量	399,645 千t
工業用水	36,492 千t			COD	106 t
地下水	240 千t			廃棄物	
上水道	151 千t			最終処分量	83 t
石油化学事業				石油化学事業	
エネルギー				大気への排出	
購入電力	1,440 TJ (148,439 千kWh)			CO ₂	2,404 千t-CO ₂
燃料	41,919 TJ (1,082 千kl-原油)			SO _x	792 t
				NO _x	897 t
用水				排水	
海水	29,340 千t			排水量	33,770 千t
工業用水	20,898 千t			COD	64 t
地下水	42 千t			廃棄物	
上水道	0 千t			最終処分量	467 t
製品	石油製品生産量 23,908千kl	販売電力※5 134,279千kWh	販売蒸気※6 4,127TJ	販売CO ₂ 144千t-CO ₂	
エネルギー		製品輸送・貯蔵 (油槽所) ※2 ※3 ※7		大気への排出	
購入電力 (貯蔵)	132 TJ			CO ₂ (貯蔵)	28 千t-CO ₂
燃料 (貯蔵)	275 TJ			CO ₂ (製品輸送)	183 千t-CO ₂
燃料 (製品輸送)	2,636 TJ			大気への排出	
エネルギー		販売 (SS) ※2 ※3		CO ₂	
購入電力	474 TJ			22 千t-CO ₂	
燃料	1 TJ			大気への排出	
エネルギー		消費 (製品使用) ※5 ※6 ※8 ※9		CO ₂ (製品使用)	
				52,455 千t-CO ₂	
				SO _x (製品使用)	
				144,481 t	
				CO ₂ (販売電力)	
				65 千t-CO ₂	
				CO ₂ (販売蒸気)	
				202 千t-CO ₂	
研究所・オフィス等 ※2 ※3 ※10 ※11				大気への排出	
購入電力	102 TJ			CO ₂	
燃料	56 TJ			9 千t-CO ₂	



コスモエネルギーグループのCSR

社会とのコミュニケーション活動の推進

石油を中心としたエネルギーインフラを支える企業としての私たちの使命と役割は、とても大きなものです。エネルギーの安定供給を堅守する体制を構築すること、世界の社会的課題の解決に向けて、事業活動を活かした独自の環境活動に継続して取り組んでいくことが私たちの責務であると考えています。

安定供給を堅守する体制

地震BCP（事業継続計画）の取り組み

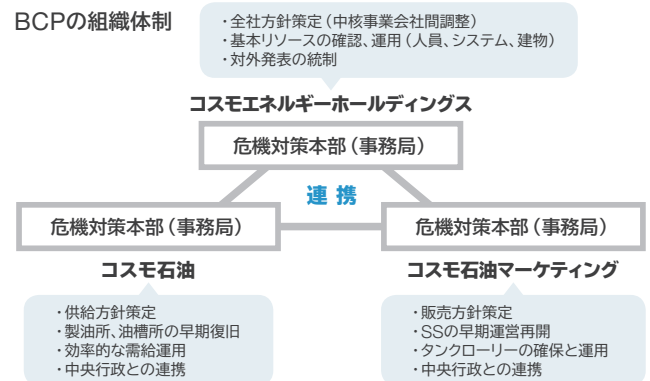
持株会社体制への移行に伴って地震BCPマニュアルを改定し、持株会社以下各社で危機対策本部を設置の上BCPを発動する体制に変更しております。更に、首都直下地震等により本社で危機対策本部が設置できない場合でも、継続して安定供給ができるように、コスモ石油堺製油所、コスモ石油マーケティング関西支店へ設置する臨時危機対策本部のマニュアル整備、拡充を行い、訓練に取り組んできました。今年度は、引き続き、より実効性の高い訓練に取り組んでいきます。

本社のBCP対応設備

コスモエネルギーグループでは、各事業所に衛星電話およびMCA無線※を設置しており、固定電話や携帯電話が使用できない状況でも連絡が取れる体制になっています。また、本社については、非常用発電機が設置されており、危機対策本部を設営する大会議室には常用と非常用の電源切替盤（BCP対応盤）、非常用電源使用時に使用できるコンセント（BCP対応コンセント）などが設置されています。

※MCA無線（Multi Channel Access radio system）
日本国内の大規模災害で活用できる業務用移動通信

BCPの組織体制



コスモエネルギーグループの地震BCPの概要

ポイント	・BCP骨子と各部門BCPマニュアルの災害想定を統一する ・災害想定に基づき、各社・各部門にて被害想定を行う ・災害想定、被害想定を基に、当社としての業務継続目標を明確にする ・各社・各部門の業務フローを時系列に分け、その間の業務内容を明確にし、部門間の連携を強化する
基本方針	①「人命尊重」「二次災害防止」「安定供給」 ②系列サプライチェーンBCP（製油所・油槽所での出荷、SS運営まで）の早期復旧 ③石油備蓄法に基づく「災害時石油供給連携計画※」との整合性
想定ケース	首都直下地震および南海トラフ巨大地震
業務継続目標	石油製品の安定供給を中断させない、あるいは24時間以内に再開できるよう、製油所出荷からSS運営の継続に努める
事前対応（防災・減災）	・地震BCP訓練の定期的な実施 ・地震、津波へのハード対策（装置の安全停止や、側方流動対策等）

※大規模災害発生時に、石油精製元売が連携して共同作業体制の構築、設備の共同利用、輸送に係る協力等の共同オペレーションを実施し、石油供給を行う計画。

臨時危機対策本部訓練の実施

首都直下地震が発生し本社機能が喪失したとの前提で、2015年度から、事業を継続させるための訓練を実施しています。

今年度は、2016年10月17日に関西の製油所、支店に、本社に代わって臨時危機対策本部を設置し、被害情報の収集や供給維持のための手順等を行うことで、出荷再開までに必要となる項目の確認を行いました。

今回の訓練で抽出された課題は、その改善点をマニュアルへ反映するとともに、次回の訓練へも活かしていきます。

今後もリスクマネジメントの一環として様々なBCP訓練を実施し、石油製品の安定供給に取り組んでまいります。



臨時危機対策本部訓練の様子

事業活動を活かした独自の環境社会貢献活動

コスモ石油エコカード基金

コスモエネルギーグループは、環境意識が高くSSのご利用も多いロイヤルカスタマーの方を主な対象とした会員カードとして、環境活動に貢献できる機能を追加したコスモ・ザ・カード「エコ」（以下、エコカード）を2002年より発行しています（会員数6万4千人）。環境意識が高いエコカード会員のお客様と当社グループが、ともに寄付金を拠出してコスモ石油エコカード基金を構成し、地球温暖化問題を中心としたプロジェクトを世界中で実施しています。2016年度は14のプロジェクトを行い、3万5千本の植林活動や3万8千haの森林保全活動に取り組みました。地球温暖化問題の根本には途上国の貧困や教育、経済成長などの社会的な課題があり、エコカード基金が支援するプロジェクトはそれらの課題解決にも寄与している点が大きな特徴です。2016年度は、南太平洋のソロモン諸島で2002年から取り組んできた熱帯雨林保全と経済成長を両立させる取り組みが現地政府から高く評価され、叙勲されました。コスモエネルギーグループは、これからもエコカード会員のお客様とともに世界の社会的課題解決に継続して貢献していきます。



コスモ・ザ・カード「エコ」



ソロモン諸島での叙勲式の様子

詳細情報

コスモ石油エコカード基金活動報告書2017
<http://ceh.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/report.html>

コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン

2001年に開始した「コスモ アースコンシャス アクト」は、コスモエネルギーグループと全国FM放送協議会がパートナーシップを組み、地球環境の保護を呼びかけていく活動です。この取り組みの一環として、身近な場所で自然と親しみながら清掃を行う「クリーン・キャンペーン」を実施しています。

16年間で延べ631カ所を清掃し、239,590名にご参加いただき、総量6,852,072リットルのごみを回収しました。

また、毎年夏には「クリーン・キャンペーンin Mt. FUJI」を実施し、アルピニストの野口健さんと全国から集まったボランティアやスタッフ160名で富士山の清掃とエコトレッキングを実施しています。



クリーン・キャンペーン
in Mt. FUJI 開催の様子

富士山で、不法投棄された
ごみを掘り起こし回収して
いる様子



詳細情報

コスモ アースコンシャス アクト活動スケジュール・報告
 公式サイト <http://www.tfm.co.jp/earth/>
 facebook <https://www.facebook.com/earth.act>

社会貢献活動

コスモエネルギーグループは、経営理念のひとつである「企業と社会の調和と共生」に基づき、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

1993年に開始した、代表的な活動である「コスモわくわく探検隊」は、交通遺児の小学生を対象に夏休みに2泊3日のキャンプを行う自然体験プログラムです。24回目を迎えた2016年度は、交通遺児の小学生42名と社員ボランティア9名が参加。沢登りや木の間伐、その木を使ったクラフト制作などを行うことで、自然環境の大切さを学びました。



コスモわくわく探検隊開催の様子

詳細情報

社会貢献に関するページ
<https://ceh.cosmo-oil.co.jp/phil/index.html>